

令和5年度補助事業の概要 (公益社団法人 東京湾海難防止協会)

1. 海の安全運動の推進

- (1) 令和5年度海の安全運動実施計画に基づき、5つのキャンペーンを展開した。



海水浴場における安全教室



合同パトロール出動式

- (2) 海の安全運動推進連絡会議を2回開催し、第1回会議（令和5年10月開催）において、キャンペーンの進捗状況を確認し、第2回会議（令和6年2月開催）において、令和6年度海の安全運動実施計画を策定した。



海の安全運動推進連絡会議開催状況①



海の安全運動推進連絡会議開催状況②

- (3) 令和6年3月5日、海の安全運動推進連絡会議 議長表彰 表彰審査委員会を開催し、令和5年度海の安全運動において貢献度が高いと判定された、(株)崎陽軒の議長表彰を決定した。（4月23日、(株)崎陽軒に対して表彰状と副賞を授与する予定）
- (4) 民間企業と連携した取り組み
知名度の高い民間企業のキャラクターを記載した海難防止啓発グッズを作成し、各種啓発活動で活用した。（赤城乳業(株)のキャラクター「ガリガリ君」とのコラボ）
- (5) 令和5年度海の安全運動の啓発活動で使用するリーフレット、グッズを作成した。



ガリガリ君メモ帳



トートバック



リーフレット（抜粋）

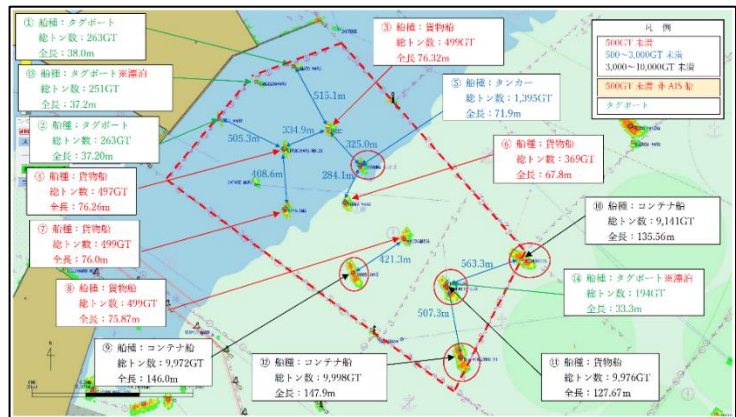
2. 令和5年度 京浜港錨地の利用実態の評価に関する検討会

- (1) 令和5年7月13日、ビジョンセンター浜松町において、「令和5年度 京浜港錨地の利用実態の評価に関する検討会」を開催し、年間を通じた京浜港錨地の利用実態調査の実施に

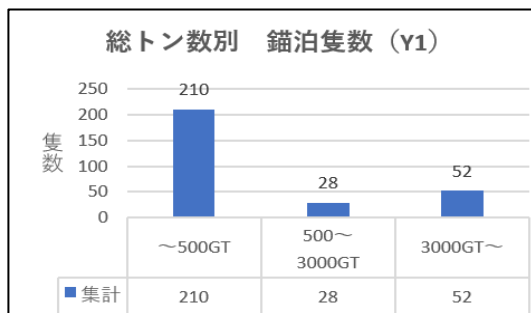
ついて検討を行った。同検討会では、実態調査の結果を踏まえて、京浜港錨地の課題改善状況を検証、評価することとしている。

- (2) 令和5年10月、京浜港錨地の利用実態調査を開始し、令和6年9月まで1年間継続して調査を行う予定である。本調査は、京浜港錨地で最も利用者のニーズが高く、混雑傾向にある Y1 錨地の錨泊状況の現地調査を行うとともに、輸出入・港湾関連情報処理センター(株) (NACCS) に登録される錨地指定情報、第三管区海上保安本部東京湾海上交通センターが提供する錨泊船情報を分析することにより、錨地の利用実態を把握することとしている。

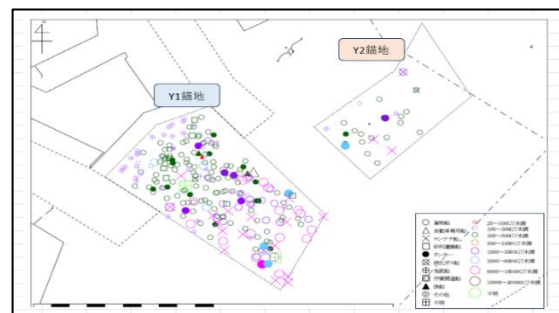
Y1 錨地における錨泊状況
(調査のアウトプット)
⇒



- (3) 錨地利用実態の分析状況 (抜粋)




Y1 錨地における錨泊船



錨泊位置の重畳図

- (4) 錨地利用実態調査結果の中間報告

令和5年10月～令和6年3月までの調査結果(6ヵ月分)について、中間報告として3月末に取りまとめを行い、令和6年度第1回検討会(6月開催予定)において、委員と共有するとともに、PDCA サイクルを踏まえ、調査方法の見直し、追加調査の実施等について、検討することとしている。



(案)

令和5年度


利用実態調査結果(とりまとめ)

令和5年10月～令和6年3月

事業計画(案)

京浜港錨地(横浜区・川崎区)の
利用実態の評価に関する検討会

令和6年3月



公益社団法人 東京湾海難防止協会